

ヴィフレン (2914m)

8月14日(日) リラの僧院へ向かう。レンタカーで路面の良くない道を走り僧院に着いたが、僧院前の駐車場は狭く満車。多くの警察官が出て交通整理している。ここは必ず訪れる世界遺産として有名。昨日、マリオヴィツァ(2729m)を往復したときに稜線からリラの僧院を見ているだけに感慨深い 指示に従って奥の駐車場まで行ったが、僧院まで1km程離れた所に駐車場があった。係りのおばさんが料金を徴収していた。幸いこの場所から森の中を歩き、最後はホテルやレストラン、お土産屋などを見ることができるよう道が作られていたのがよかった。ムサラ山頂でブルガリアの伝統楽器を演奏する人が使っていたガイダというバグパイプの一種のミニチュアが土産物屋で売っていたものを目にしたのはラッキーであった。彼が何を吹いていたのか、これでははっきりした。

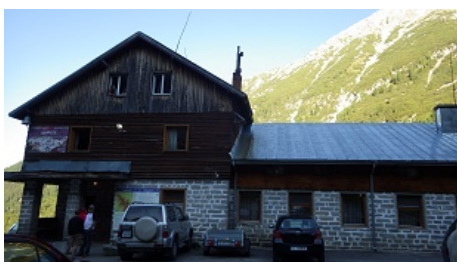


リラの僧院と僧院から見たマリオヴィツァの山並み



← ガイダというバグパイプ一種

さて、ヴィフレンはピリン山脈にある最高峰(ブルガリアではリラ山域のムサラに次ぐ第2の高峰)で標高2914mである。大理石の山としてNHKでも放映され知られるようになった。岩質を実際に確かめてみてよく分かった。比較的楽に登ることができる起点となるヴィフレン小屋までは、バンスコからさらに林道終点まで17km程行かなければならない。ヴィフレン小屋の個室は満室であったがドミトリーに宿泊することができた。朝食なしで一人12Leva。マリオヴィツァでは、朝食なしで同じドミトリーで一人28Leva。これに比べると半額以下でベッドも快適、食事も多彩で美味しかった。難点は小屋の前の駐車場が管理されていないこと。車を出せるスペースを空けておくものというのは日本人の感覚なのだろうか。スペースがあれば突っ込んで駐車してしまうことを知らなかったので、帰りに車を出すのに苦労した。こちらの意向を小屋の人や周りの人に伝えても拉致があかず、脱出するのに小一時間もかかってしまった。それでも何とかしようとする小屋のおばちゃんにはほんわかされた。



ヴィフレン小屋



標高は1972m



ステーキは美味でした





小屋から少し登ると、北側のルートとの分岐の標識があった。ここから右へトラバースが始まる。トラバースを終えて、無人小屋（道はこの小屋には寄らないが、宿泊者がいた）が見えてくる辺りから本格的な登りになり、やがて岩場が現れてくる。しかし、ルート上には新しい鎖が設置してあり心強かった。下りには安全性からも好ましい。頂上からは多くの人が登ってくる南側を下った。



どこでも同じであるが、ブルガリアにも全国観光名所 100 選というものがあって、ガイドパンフがヴィフレン小屋で売っていた。購入したが、この 100 選の記念スタンプをヴィフレン小屋で押してもらえると後で知った。さらにこの地域にブルガリア国内で最も古い木「バイクシェフのマツ」と呼ばれる樹齢 1300 年のポスニアマツが生息していることも知った。いろいろと事前の見落としはあるものだ。山だけに専念するのではなく、文化や自然への目配りがもっと必要なのだろう。ピリン国立公園は世界遺産に登録され、ユネスコによる保護の対象になっている。

下山後、サンダンスキーに向かう途中、バンスコに立ち寄る。バンスコはブルガリア随一のスキースノーボードエリアであり、2012 年にスキーフールドカップが開かれている。

ゴンドラも最新なもので、他のヨーロッパアルプスと変わりが無い。夏はシーズンオフのため閉まっているショップも多かったが、開発の勢いはすごいと感じた。これから、益々リゾートとして発展していくことであろう。

